

世阿弥研究会 簡易記録 (2019.7. 30) @河村能舞台 18:00~20:00

配布資料・能楽情報

1. 片山定期能 九月講演 : 京都観世会館 : 9月21日(土) 午後1時開演 (12:30 会場)
能「松風」河村博重 狂言「伯母ヶ酒」茂山逸平 能「船弁慶」梅田嘉宏
2. 第23回 (片山家) 能装束・能面展「継承の美」: 京都文化博物館6F
3. 京都観世会館会報誌 734号 令和元年7月号

鎌田東二先生の神話詩第3部「狂天働地」出版のご案内

本日の話題:

謡とラップ (リズムと言葉・言葉とリズム)

観阿弥は室町のラップ

形式以前の「遊び」

振動と言霊

リズムに乗って出てくる言葉 (考えて出て来る言葉でない) (考えてはダメ)

途中挿入の自由

言葉に反応→引き出されてくる

鎌田先生は3D (でまかせ・でたらめ・出稼ぎ)

「狂天働地」をラップで、知り合いのラッパーとやってみようか。

創作の2つのタイプ

作りこむタイプ・即興タイプ (その場タイプ) 三澤さん: ラップの映像 (スマホ)

昔は歌でやり取りしていた。あいさつもすべて歌。

本日の読解

1. 謡の作曲・謡い方・作曲の達人のワザ 「音曲の品々」 pp.247-249 「曲付次第」
2. 「節曲舞 (ふしくせまい)」 pp.249-251
3. 息のこと「音曲の息のこと」 pp.251-252

読解1.

謡の作曲・謡い方・作曲の達人のワザ 「音曲の品々」 pp.247-249 「曲付次第」

①祝言用の謡

サシから5・75の句を6回ないし7回うたって、(75で一句となる短歌1首が2句にあたる)

次に、下げ歌から上げ歌まで、およそ10句ほどうたうのがよい。

すらすらうたうたい切るのがよろしい。

高い上音 (1オクターブ高い上音) などは、ひとつくらいにして、のびのびした趣に、

「文字移り」も軽く、たっぷりと作曲するのがよい。

② (祝言用ばかりでなく) 他の定型をもつ部分の謡

75・75と拍子にあわせ、まともに、しっかりうたわなくてはいけない。

③曲のいろいろ・・・謡のそれぞれの部分に応じて、最後の段にいたるまで所々に生かして使う
拍子を置いて待つ「曲」・遺る節・拍子を先にやって待つ節・重ね節・責め節・早節など

④謡一段に同じ曲は一度だけ

とくに切る節や畳む節は、やたらに使わない。

7 5・7 5の句の中に同じ声あつかいがあるてはならない。

高い上音は上歌一段のうちで多くていちどに限るのがよい。

⑤機微の識別は作曲者のすぐれた理解から生まれる達人のワザ

ディスカッション

同じものを使わない。

全部が新鮮になるように

・・・河村先生実演

宇多田ヒカルの区切り方：息継ぎが独特、引き延ばしなど

韻がちがう・・・音を優先

ジャンプ・・・まったくちがう世界を作る

・・・⇒ 言葉の渦の中に（シャーマン＝ラッパー）

デマカセ・・・ビート・グループ・乗っていく（旅）

言葉あそび・・・意味が先にあるのではなくて

ぴちぴち・チャピチャブ・らんらんらん

オモノトペ

波とサーフィン

ビートとラッパーのコミュニケーション

曲が出て来る → 詩が出て来る

流れ（波） → 言葉が出て来る（実は何でもいい言葉）

「ノリ」

囃子 7 5 調を 8 拍子→16 拍子に

上の句 1・・・2・・・3・・・4・・・

下の句 5・・・6・・・7・・・8・・・

西洋の 4 拍子 4/1・2・3・4 （アウフ・タクト）→ 日本の掛け声

スカ： ゆっくりだとレゲエ

能のレゲエが神楽 ヨッ！・ハッ・ハッ・ハッ/

波に乗るのではなく、自分が波になり石にぶつかりながら流れる

いかだ下り カヤック 丸木船

「木やり歌」

祈りの歌（祝言歌）—うまく降ろす歌（労働歌）・・・世界のもつ共通性

木の聖霊と交流する→祭り→渦・熱狂

「酒造り歌」「紙すき歌」「機織り歌」・・・型の継承

・・・フラダンス・ベリーダンス・スーフィー：身体リズム・響き：天鈿女

曲舞・憑依型

読解2 「節曲舞（ふしくせまい）」・・・白拍子から転化した芸能である曲舞の内、歌謡だけをいう

pp.249-251

- ① 節曲舞とは通常の謡いかたとすこし違う系統
- ② 拍子を基本にして拍子に乗るようなくあいに軽く進めるのがよろしい。
- ③ 拍子を先にして、間の伸縮を5・7、5・7の「句移り」で調整に配慮
- ④ 拍子を打って待つ「曲・重曲・切って遺る「曲」などどしどし使って作曲するのが良い
- ⑤ 近頃流行りの「小歌節曲舞」：ふつうの謡に曲舞ふうを加味したもの（やわらかく優美）
曲舞からでてているが、曲舞の「曲」とは言いにくい。「文字移り」「句移り」も結構、耳当たりも良い。
- ⑥ 繰り返す：賛成しかねるが最近では繰り返しの終止がしばしば用いられる。本来の曲舞にはない。
- ⑦ 曲舞謡で拍子を基本とする：舞いながら謡う音曲だから拍子をもとになっている。
総括的な呼びかたでは音曲に属するが、わざわざ「舞」の字を添えて曲舞と呼ばれている
- ⑧ よく識別して作曲せねばならない

ディスカッション2

旋律の面白さ

小歌・早歌（2～3行 ゆったり 7-8行たっぷり：羽衣の「上げ歌」のびやかに）

作曲法

面白く、めずらしく、花があり、新鮮にうつる・・・単調になりがち

大衆受けでなく、目利きがみて面白いと思わないと

聖と俗：バッハ流行歌を入れて崇高な音楽

テクノ：ロシアの踊られるテクノ（女性はハウマ）

「高砂」のキリ オノモトペ・・・能テクノ

読解3 息のこと

pp.251-252

- ① 謡における息：声を続けてゆく基礎
- ② 息を補助する作曲の工夫が「曲」の根本義
- ③ 「句移り」の切れ目で息をつぐ
- ④ 拍子に合う謡になってからはその「曲」の在り方で二句ほど息をつがないで謡いとおすこともある
- ⑤ 「句移り」「文字移り」の切れめをきれさせないものは息である
- ⑥ 息がまだたっぷり残っているうちに文句を終わらせるのが良い
- ⑦ 捨て声：「句移り」の境めの語音を完全に発音せず次の句へと進む。

語句が意味として完結しない中間の所で、わざと息を抜かすことがある

息をつぐところで語音を処置するわけで、曲舞謡などに出て来る非常に高度なもの

特別な秘伝の「曲」だと承知しておくがよろしい。

ディスカッション3

宇多田ワールド：息つぎの仕方：意味の切れ目、音節の切れ目

どこで切るか ex. シイナ・リンゴ：切れ目でずらす

捨て声：どこでつなぎずれがあるのか（わざとつくる秘曲）

・・・・河村先生実演・・・・ 「江口」の「普賢菩薩」

フゲエエーン ボオオーサアツ アラワレ

替え歌と定型・間合い

ex 鎌田先生第3詩集 アシハ | ラノナ | カツクニ

しかし=but → し・かし（一拍おく、ずらす、のぼす）

第2詩集「亀嶋の翁」朗読の際の井上氏による冒頭の替え歌的朗唱

星影のワルツ「南無阿弥陀仏」（歌詞は「ナムアミダブツ」で節は「星影のワルツ」

・・・・実演（鎌田先生）・・・・

ベートーベン第九による「草木国土悉皆成仏」の朗唱

犬は第9が好き：路上パフォーマンスチェロ演奏中、第9を弾くと犬が反応する

NHK 朝ドラ「なっちゃん」

神道ソングは音から、詩は言葉から

詩集のくずしの度合いは言わば

第1詩集 楷書

第2詩集 行書

第3詩集 草書

次回の予定（8月20日なし、9月・10月未定、8月26日に9月の日程調整を行う）

8月は世阿弥研究会は行ないませんが、その代わりに、8月26日夕方18時30分から関西セミナーハウス（入場は有料・事前申し込み不要）で創作能舞舞踏を行ないますのでぜひご観賞ください。当日、直接、京都市左京区一乗寺竹の内町23の「関西セミナーハウス・修学院きらら山荘」にお越しください。能舞舞踏だけの鑑賞者は入場料は1000円になります。受付を出しますのでそこでお支払いください。能舞台は建物の一番奥の上の方にあります。観賞は庭に椅子を出して野外から能舞台を見るという形になります。雨天の場合は建物の中に入って観賞します。

新作能舞舞踏「比叡翁童死生谷」上演（台本：鎌田東二）

（能舞：河村博重・舞踏：由良部正美・演奏：鎌田東二）